

Expanding Your Horizons (EYH) Program —Overview 2017-2019—

EYHプログラムとは

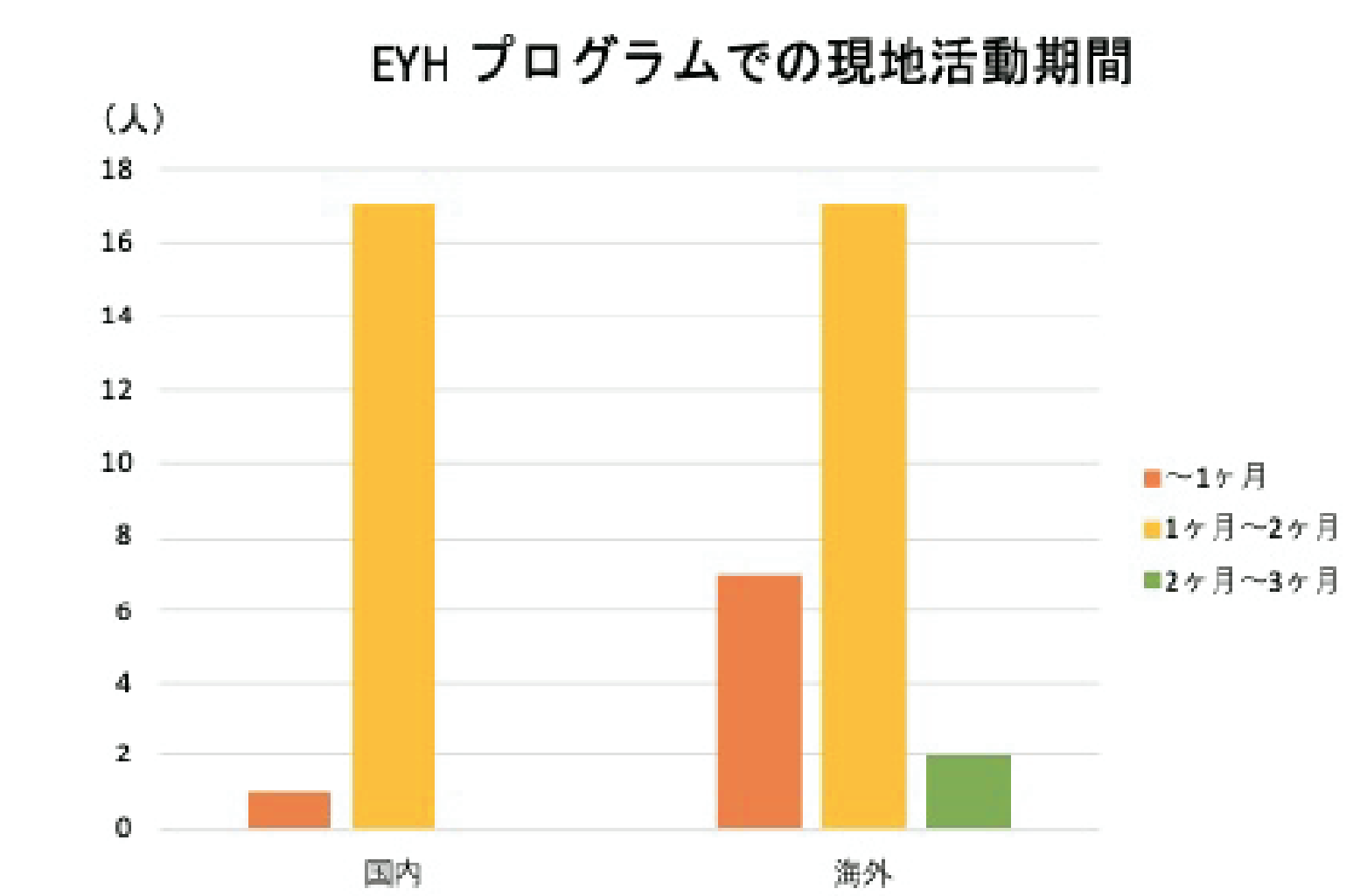
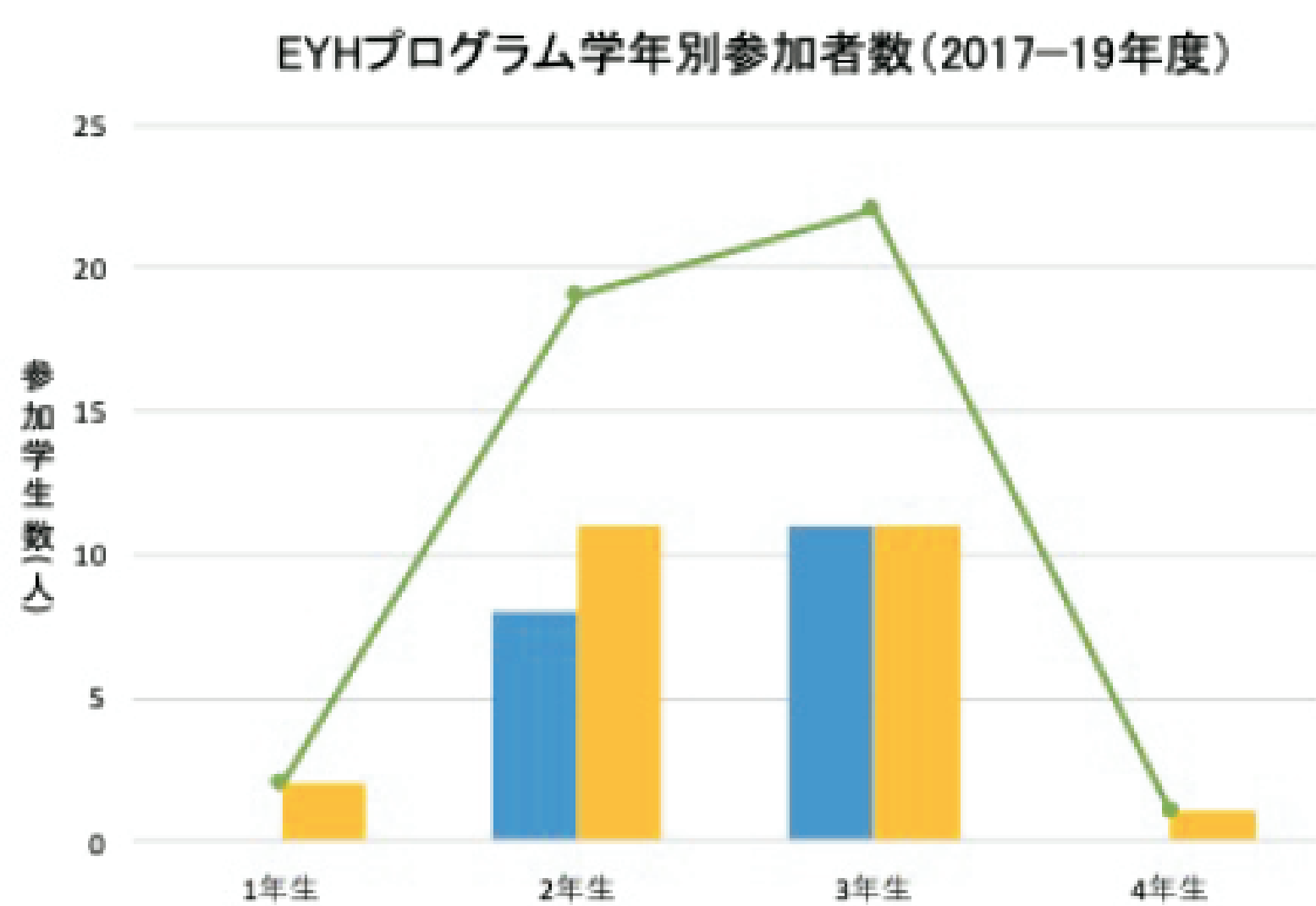
福岡女子大学において2017年から開始したEYHプログラムは、文部科学省の大学再生加速プログラム（AP）の一環で、地域の問題のために活動している組織（自治体、団体、企業など）において、1ヶ月以上にわたり活動するものです。この3年間で世界5カ国、26名、日本国内18名、合計44名の学生と学生の訪れた地域に変化をもたらしてきました。



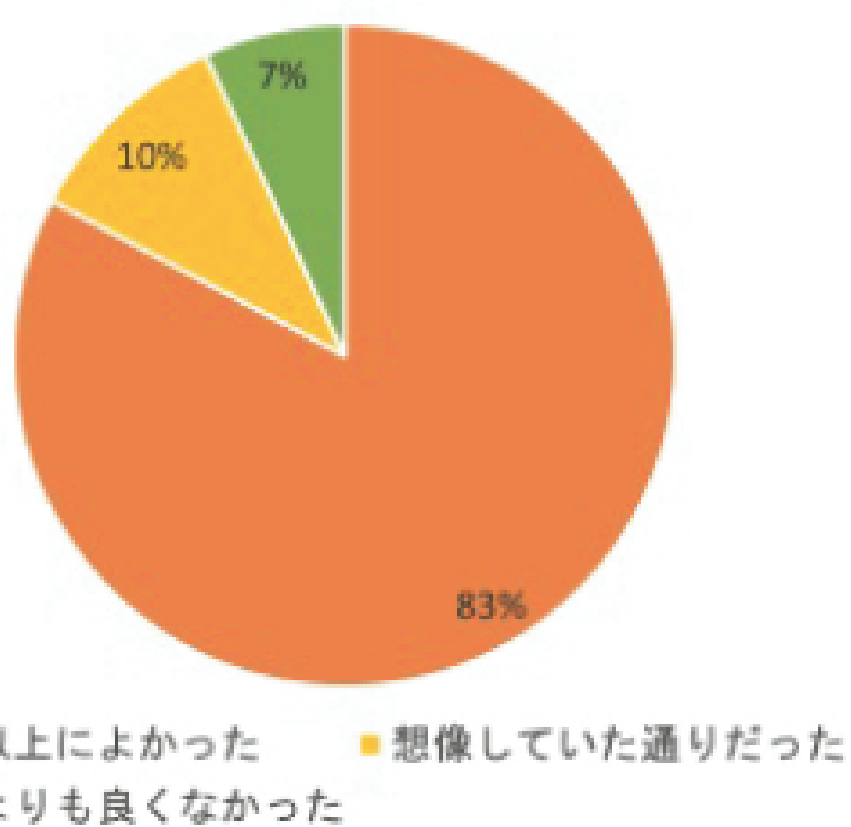
2017-19年度 EYHプログラムにおける学生の活動地域

〔活動内容〕カナダ：ESL+地域ボランティア就業体験 フィンランド：デザイン会社、地域新聞社で就業体験 オーストリア：旅行会社で就業体験 クロアチア：大学で日本語教育TA インド：NGOでボランティア 福岡市：県庁、シンクタンク、ウェブ制作会社、イベント会社で就業体験 宗像市：自治体で地域おこし活動 糸島市：地域活性化支援企業で就業体験 熊本・小国町及び長崎・対馬市：過疎地の活性化支援活動 大分・別府市：アートNPOで就業体験

EYHプログラムにまつわるいくつかのデータと学生の声



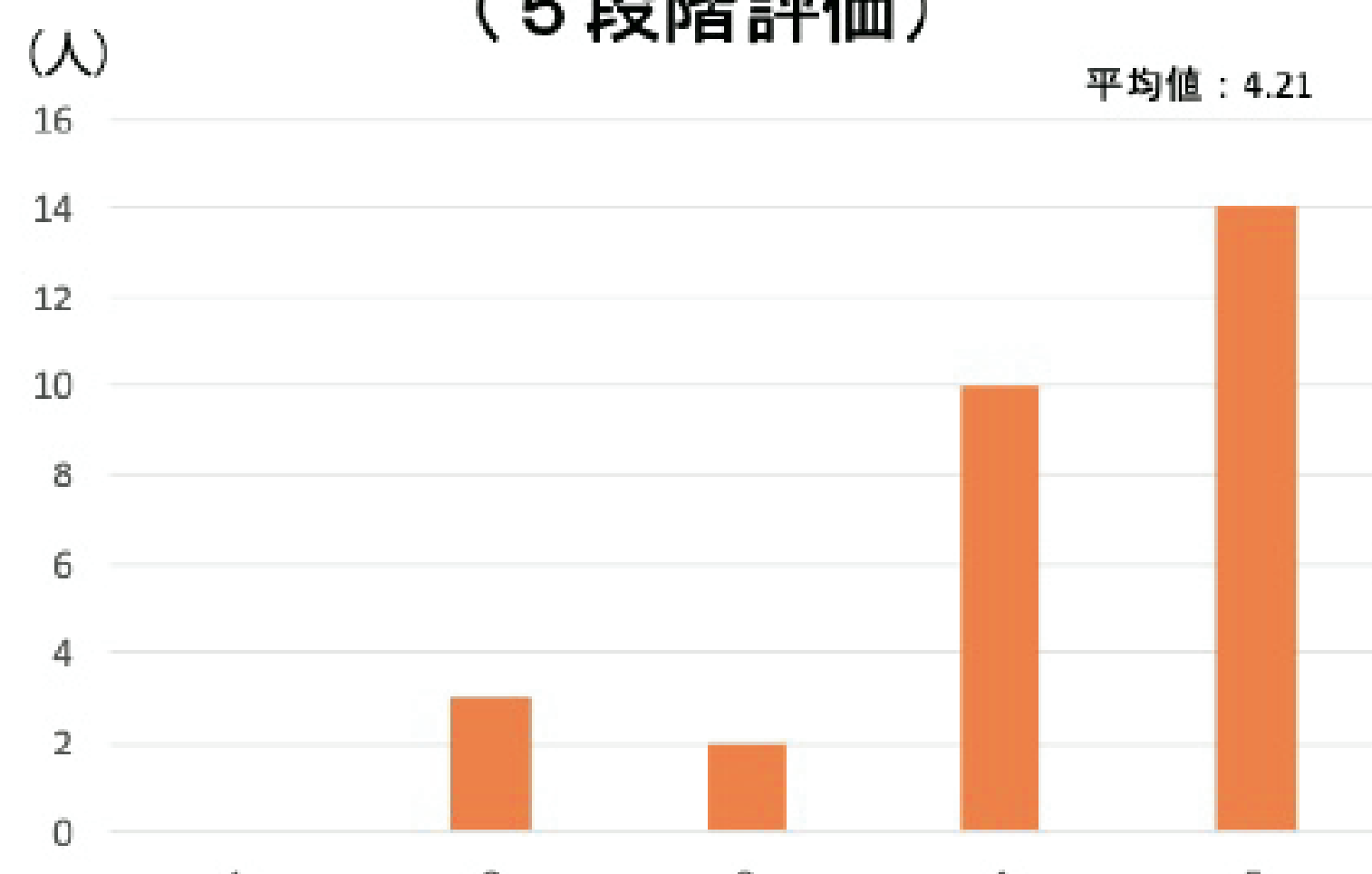
EYHプログラム参加前の期待度と比較して、実際参加してみた感想 (n=29)



学生の声

「思っていた以上に様々な人と出会い、話をし、沢山の場所に自らの足で行き、景色を自らの目で見ることが出来た為」
「自分の将来像が参加する以前と比べて明確になり、勉強するモチベーションもあがったから」
「この経験が無ければ、地方の過疎化に対して問題意識を持つことが無かったと思う」
「過疎化、少子高齢化が進む地域の人々に直接お話を聞いたことはこのプログラムに参加しないとできない体験だったから」
「各国のリーダーシップを持った人と話せたし、自分でやることを決めて実行するという経験をできたから」

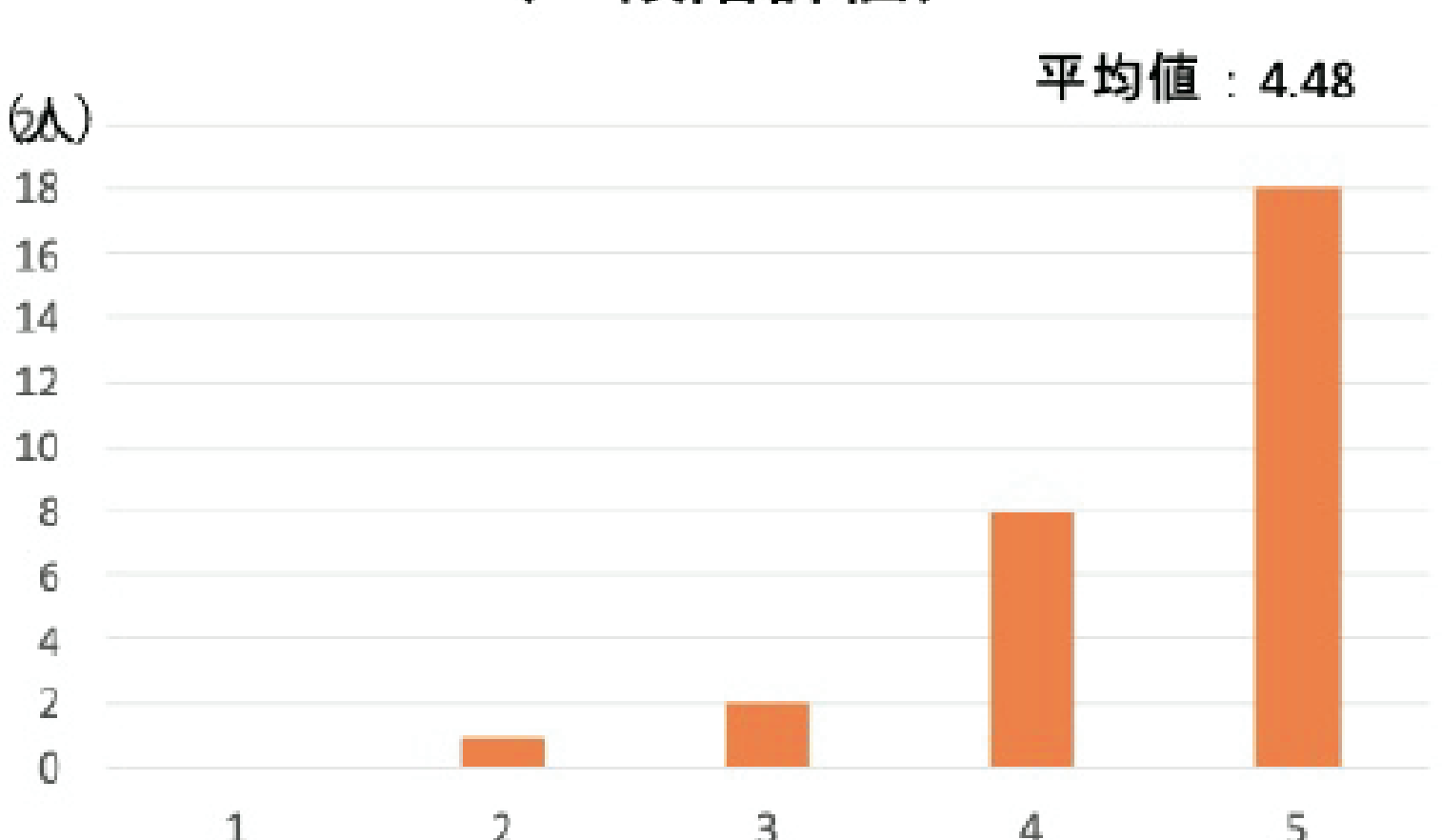
事前・事後学修は、役に立ったか (5段階評価)



学生の声

「事前に調べ学習を行うことで、いい意味で事前の学習と現実とのギャップを感じることができました。実際に目で見て学ぶことも多かったです」
「事後学修では貴重な経験で得たことを自分の中に定着させることができたと感じています」
「(事前調査を通じて)現地でどういった生活を送るかの想像や計画ができた」
「事前学修で日本とカナダについて各自で調べて、調べるだけでなく、発表をしたことでより頭に残ってカナダに滞在している間その学習を実践できたと思いました。特にやっておいて良いと思ったのは、日本について改めて調べておいたことです」
「(事前学修での調査があったので)、実際にインターンシップ先に行った際に、その問題点をどのように解決しているのか注目し、担当者の方に質問することができました」
「事前に調べることで、調べる時には完全に理解できていなくとも、業務に入った時に点と点が繋がる感覚があり、スムーズに業務に取り組むことができた」
「問題解決力の基礎が身についた。自分で課題を設定し、解決のために仮説を立てて、実際にアクションをするという一連の動きを体験することができた」
「知識をつけることができたため、参加中に深い内容の質問をすることができた」
「(事前学修で)調べていたことが、現地で社長に自分の意見を話した時の根拠として使えたから」
「地域活性化のための仕事は1つに限られていないという新しい気づきがあった点」

プログラム参加後の学業 (学業のモチベーションや研究内容) への貢献度 (5段階評価)



学生の声

「もっと英語の勉強をしたいと思うようになったので、英語の授業の参加意欲が上がった」
「EYHを通して、自分の知識の浅さ、経験の少なさに気付くことが出来た。プログラムの前と後では勉強へのモチベーションが全く違うと思う」
「英語については話すことに行く前よりも抵抗がなくなったので、英語の授業などに対して少し積極的になれたと感じています」
「学業面では、視野が広がり、幅広い分野で意欲的に学習に取り組むことが出来ました」
「ゼミでの卒論で日本における過疎問題について調べるきっかけになりました」
「学業において、事前学習、分からないことはすぐ調べるということを実践するようになった」
「世界で起きている様々な問題をより身近なものとして感じるようになることができました」

EYHプログラムにおける学生たちの取り組み

EYHプログラムにおいて、参加学生たちは、様々な場所で、たくさんのユニークな経験をしてきました。

〔海外〕

地域貢献ボランティアの要素が大きい海外での活動において、学生たちは小さな子どもたちやお年寄り、貧困の状態にある人々の支援を行う活動等を通じて、これまでの自分の生活を見つめ直し、社会の多様性を実感し、自分には何が出来るかを改めて考える機会に恵まれました。



〔国内〕

少子高齢化、過疎化が進む地域で、地域活性化の活動をしたり、企業で様々な事業のサポートをしたりという経験は、学生たちの自身自身の可能性に気づいたり、普段は見えない社会を支える仕事について考えたりする大きなきっかけになりました。



理論を学ぶだけでなく、実際に現場で体験することで、これまでの自分の学びの足りなさに気づき、大学に戻ってきてから、さらに知りたい、学びたいというモチベーションに繋がり、さらにこの1ヶ月や2ヶ月という期間を乗り切れたということで、大きな自信につながったということです。